

CUC Summer Program 2023

本学学生の声

1. 2023年度 CUC Summer Program レポート 国際教養学部 田端歩 ……p.2
2. サマープログラムを終えて 商経学部 出口翔夢 ……p.4

【プログラム概要】

日程:2023年8月17日~26日(10日間)

海外参加校(全5校):サー・パダンパット・シンハニア大学(インド)

国立台北商業大学(台湾)、

ローゼンハイム応用科学大学(ドイツ)

FPT 大学(ベトナム)

パンヤピワット経営大学(タイ)

参加人数:海外学生 13名 CUC サポーター学生:20名

	午前	午後
8/17	Arrival	16:00~ Campus Tour 17:00~ Welcome Dinner
8/18	10:00~ Orientation-2 11:40~ Lunch	13:00~ Activity-1 ・Yukata Experience13:00~14:30 ・Asakusa Sightseeing15:00~18:00
8/19	Free Time	
8/20	Free Time	
8/21	09:00~ Lecture① 10:40~ Lecture② 12:10~ Lunch	13:30~15:30Activity-2 ・Japanese Language Experience
8/22	09:00~ Lecture③ 10:40~ Lecture④ 12:10~ Lunch	13:30~15:30 Activity-3 ・Woodblock print experience
8/23	Chiba Prefecture Bus Tour	
8/24	09:00~ Lecture⑤ 10:40~ Lecture⑥ 12:10~ Lunch ~14:00 Participation in Campus Festival Event	14:00~16:00 Activity-4 ・World tour
8/25	09:00~ Lecture⑦ 10:40~ Lecture⑧	13:00~16:00 Farewell party
8/26	Checked-out ~ 12:00	Departure

2023 年度 CUC Summer Program レポート

国際教養学部 田端歩

1, はじめに

(1) プログラムに参加した背景や目的

私がこの Summer Program に参加した理由は、今まで海外の学生と話す機会がなかったため海外の友達を作りたいかったからだ。また、自分自身の英語力を確かめ今後に活かしたいと思ったからだ。

(2) Summer Program 詳細

期間は 8 月 17 日から 26 日の 10 日間千葉商科大学で実施した。今回参加した国はドイツ、タイ、ベトナム、インド、台湾の計 5 か国が参加した。日程は主に午前中に講義を受け、午後はアクティビティになっており、浅草観光や千葉県ツアーなど様々な日本の文化を体験することができた。

2, 感想

(1) 経験や成果

私は人見知りて話し合えることができるか不安だったが、最初に海外留学生在が優しく声をかけてくれたおかげで、その後は自分から積極的に質問や会話をすることができた。また、目的であった海外の友達をつくることができ、お互いの言語や文化を教え合いながら仲を深め合えた。プログラムでは交流だけでなく、観光や実際に日本の伝統的な文化を体験するなど初めて行うことがほとんどで日本を今まで以上に知ることに繋がった。

(2) 学んだこと

今回のプログラムで学んだことは大きく分けて3つある。1つ目は海外留学生在の語学学習に対する意識の高さだ。中でも一番印象に残ったのは、台湾出身の日本語を勉強している学生が会話をしている中でわからない日本語を常にメモをしていたことだ。十分日本語を喋れているのに今の自分に満足せず熱心に日本語を勉強する姿に刺激を受け、自分も見習わなければならないと痛感した。2つ目は海外留学生在の積極性や発表の仕方だ。講義を受けているときも何のためらいもなく当たり前のように手を挙げ堂々と発言していたり、落語やプレゼンテーションのときにはメモなどは見ずに聞き手の目をしっかり見て発表していた。さらに、プレゼンテーションでは、発表するテーマをよく理解し質問に対して的確に答えていたり、グラフや図、地図などを見せてわかりやすく説明しながら、手や表情、話し方などを工夫してより説得力を感じさせていたところが参考になった。3つ目は、CUC サポーターの先輩方の英語力や積極性だ。先輩方の英語力が高いことや恐れなくて積極的に英語で話しかける姿勢に驚いた。英語力が自信になり、積極性につながることを改めて気づけた。

(3) 参加する前との変化

プログラムに参加する前と大きく変化したことは英語を学習することへの意識の高さだ。プログラムを通して世界の人と話すことができる英語の偉大さに実感し、自分の可能性が広がると思った。加えて、海外留学生との会話や講義などを通して英語を理解できないことが悔しいと初めて感じた。

(4) 課題・反省

自分の課題はリスニング力だと改めて実感した。英語が聞き取れないことが原因でグループ内での交流のときは会話についていけず、ただ聞いているだけの場面が多くあったことが今回の最大の反省点だと感じた。また、自分にはまだまだ積極性が欠けていると感じたので足りない部分を補えるようにもっと努力していきたい。

3, まとめ

自分の英語力を確かめ、英語を理解できないことが悔しいと感じたのでこの悔しさをばねに英語学習に力を入れていきたい。そして、今回のプログラムを通して自分が行動することでこんなにも多くのことを学び、貴重な経験をすることができることを学んだ。今後このようなプログラムがある際は積極的に参加したいと思った。優しい人たちに囲まれながら過ごした 10 日間という濃い時間を忘れず、これからの人生に活かしていきたい。



サマープログラムを終えて

商経学部 出口翔夢

今回のサマープログラムを終えて、ひと回りもふた回りも成長できたと実感しています。成長できた理由として、海外の人たちとかかわるのは人生で初めてだったけれど、何事にも臆せず自分の限界まで楽しむことができたからだと思います。この感想文では、サマープログラムを通じて印象深かった出来事などをまとめていきます。

まず、私が個人的に印象深かった出来事は、タイ出身の学生と一緒に温泉に行った時の出来事です。どうやらタイの温泉は、30℃以下の温度のものしかなく、日本の温泉はタイ人にとって熱すぎるという事実が発覚しました。無理やり肩まで浸からせましたが、かなり限界そうだったので本当に熱いのだと伝わりました。正直、これが一番個人的に大きいカルチャーショックでした。日本では主流のサウナとかも、タイ人にとっては考えられないらしく、やっぱり国によつての文化や風習などは全く違うのだなと痛感しました。

次に印象に残っているのは、やっぱりバスケットボールと一緒にできたことです。正直、私がバスケットボールをやってなかったら彼とも仲良くなれていないかなと思います。彼はかなりバスケットボールが好きだったのでスラムダンクの映画も見に行きましたし、朝早く起きて一緒にバスケットをしに行ったり、ショッピングモールでもスラムダンクのグッズを探し回ったりと、バスケット好きならではの生活ができていたのではないかなと思います。バスケットボール関連で一番うれしかったのは、スラムダンクの映画を見たあとに今までで一番うれしそうな顔を見ることができたことです。タイでは The First SLAMDUNK が上映していないらしく、見る前もかなりワクワクしているのが伝わってきました。もちろん映画館のマナーも教えつつ、楽しんで見ることができました。見終わった後のあの興奮は忘れられません。

次は、楽しかったことというよりも反省というか課題として残ったことを話そうと思います。ひとつ簡単に言うと、今回のサマープログラムでは今までにないくらいの悔しい思いをしました。というのも理由は明確で、英語力が乏しすぎてコミュニケーションがうまく取れなかったからです。高校ではテストで毎回 90 点後半を取っていました。自分の英語力にもともと自信はあまりなかったけれど、単語をつなげて話すことくらいはできるだろうという甘い考えがどこかであって、いざ実際に話すとなると、まず相手の言っていることがほとんど理解できず、理解ができなければ何を言ったらいいのかもわからず、聞き返すという能力も持ち合わせていなく、沈黙になってしまうという状況がかなりありました。そのうち、なにか話しかけたいときにも膝がガクブルしてしまうようになってしまい、自分の中にあつた英語力への自信というものがなくなってしまいました。けれども安心して下さい。僕の中の情熱は全く途絶えていません。むしろ今も燃え上がっています。今回の経験から、英語の勉強に対する情熱は一生途絶えることはないと確信することができました。頑張りたいと思います。

サマープログラム全体をまとめると、学ぶことが多すぎた 10 日間だったなと感じます。将来はまだ明確に決まっているわけではないけれど、今ここまで楽しんで勉強できている英語を仕事に繋げら

れたらいいのかなと思います。ただ英語だけじゃ戦いきれないので、英語以外のことにも全力で取り組んでいこうと思います。改めてこのような機会を与えてくださりありがとうございました。もっともっと成長していきます。謝謝。

この写真が私のお気に入りの写真です。

